

# 平成 29 年度

## 総務文教常任委員会行政視察報告

- 1 視察期日 平成 29 年 7 月 11 日～平成 29 年 7 月 14 日
- 2 参加委員  
委員長 東 千 春  
副委員長 高 野 美枝子  
委員 佐 藤 靖  
山 田 典 幸  
野 田 三樹也  
山 崎 真由美
- 3 視察先  
和歌山県岩出市 岩出市立岩出図書館について  
京都府宮津市 上下分離方式を含む鉄道運営について  
兵庫県豊岡市 防災行政無線について  
鳥取県鳥取市 天文台の運営について  
岡山県瀬戸内市 瀬戸内市民図書館について  
兵庫県赤穂市 赤穂市立図書館について  
兵庫県明石市 明石駅前再開発ビルあかし市民図書館  
について

総務文教常任委員会の行政視察報告を申し上げます。

7月11日から14日までの4日間で、各委員からの視察希望先を組み合わせ、タイトな行程となりましたが、7か所の視察を行うことができました。

委員会のテーマの一つである、図書館の将来のあり方の研究として4か所の図書館、上下分離を含む民間会社による鉄道運営、天文台、防災行政無線など市民生活や今後の課題について学ぶことができる視察先に伺うことができました。

初日、和歌山県岩出市の岩出市立岩出図書館は多くの市民から本格的な図書館がほしいとの要望を受けて、平成18年に建設されました。図書館の基本理念やコンセプト、市内他の図書館との連携やボランティアなどについて伺いました。



(児童スペースが充実している岩出市立岩出図書館)

説明では、市民の身近にあって、いつでも、どこでも、だれでも図書館サービスを受けられるように分館・分室のネットワークによる地域密着型の運営を基本理念に「恵まれた自然環境」「静かで読書や学習にふさわしい」「駐車場が広い」「木のぬくもりを感じる図書館」「児童スペースの充実」などを特徴としています。図書館ボランティアの登録は73名で、おはなし会が4グループ、布絵本、プロジェクターのグループ、絵本を題材とした展示グループ、映画会グループ、チラシを作るPRグループ、見学に対応するインフォメーショングループ、本の補修グループ等多彩な活動を行っています。

街の中心部から離れた、十分な自然環境で文化創造の聖地的な図書館ですが、子どもの「持ち込み学習」を認めないなどの規制に違和感を感じることもありましたが、理念や環境について参考になりました。

2日目は、京都府宮津市にある京都丹後鉄道を訪見し、上下分離方式を含む鉄道運営について伺いました。

京都丹後鉄道は平成27年からウィラー・トレインズ(株)が運営を開始し、名称も「北近畿タンゴ鉄道」から変更されました。

乗客確保の取り組みとしては、地域に愛されるシンボリックな鉄道を目指し、ロゴマークの製作や制服のリニューアル、駅名の変更、インバウンドの利用拡大や観光列車の利便性の向上、貨客混載、顧客ニーズに合わせた対応の追及などが行われています。

自治体との連携では、公共交通のシームレスなネットワークの構築、地域の若者の働く場の提供とライフスタイルの提案、沿線エリアの教育機関との連携が行われています。さらには、「たんてつこども新聞」「高校生ボランティアによる幽霊列車」「地元で起業を目指したビジネススクール」などに取り組んでいます。



(丹後あおまつ号)



(乗客確保の取り組みや地域との関わりについて説明を受ける 京都丹後鉄道)

保有する観光列車はJR九州のななつ星を製作した水戸岡鋭治氏のデザインで、「丹後くろまつ号」は地域の食材を活かしたレストラン列車、「丹後あかまつ号」「丹後あおまつ号」はトレインアテンダントが乗車し、車窓の見どころなどの観光案内をしながら運行しています。

京都丹後鉄道は集客や地域との関わりに対して明確

な考えのもと経営されており、学ぶことが多い視察となりました。

2日目午後は兵庫県豊岡市にて防災行政無線の整備について視察しました。

豊岡市では平成16年台風23号の際に屋外拡声子局が機能しなかった教訓を活かして、防災行政無線の整備が検討されました。戸別受信機を市内33,000世帯に全戸配布し、



(災害対応のための防災行政無線について学ぶ 豊岡市役所前)

転入時に無償貸与し、転出時に返却されています。今後は、防災行政無線のデジタル化に向けての再整備として低価格化の手法を検討し、再整備の経費を10億円程度としたいと考えています。また、市議会に「防災対策調査特別委員会」を設置し、様々な防災に関する事項を調査しています。

風水害への準備対応を事前に行うための意識が強く、今後の参考になる視察でした。

2日目の夜は鳥取県鳥取市のさじアストロパークを視察しました。

さじアストロパークは旧佐治村の時代に、当時としては日本最大級の103cm望遠鏡を設置し、建設された施設です。来場者増につながる取り組みとして、定例事業では天体観望会を毎日行い、星空解説、プラネタリウム、太陽観察などを行っています。



(さじアストロパーク)

個別事業では宇宙ふしぎ探検、星空写真コンテスト、実行委員会による星まつりなどを行っています。情報発信では、市内全小中学校に年間計画を配布、機関誌「星のたより」の発行、アストロニュースや年報で周知を図っています。学校教育、生涯教育では、学校の要望により小中学校に職員が出向き星の授業を行い、高校では宿泊研修「高校天文セミナー」の講師を務めています。鳥取大学では地球科学の非常勤講師を務めるなどの活動が行われています。



(市内を巡回する移動図書館)

3日目午前は岡山県瀬戸内市の瀬戸内市民図書館を視察しました。

平成22年に瀬戸内市新図書館整備検討プロジェクトチームが発足し①情報公開②建設までのプロセスに市民参加③経験ある人材の登用を踏まえ検討され、平成28年6月に開館しました。基本理念を「もちより・みつけ・わけあう広場 もみわ広場」とし、基本理念を実現す

るために①市民が夢を語り、可能性を拓ける広場②コミュニティづくりに役立つ広場③子どもの成長を支え、子育てを応援する広場④高齢者の輝きを大事にする広場⑤文化・芸術との出会いを生む広場⑥すべての人の居場所としての広場⑦瀬戸内市の魅力を発見し、発信する広場とする7つの指針を定めました。

サービスネットワークでは市内他の図書館、保育所、幼稚園、高齢者施設を巡回する移動図書館を展開し、各小中学校とはオンラインでネットワーク化し、どこからでも検索できるようになっています。市民との連携ではボランティアによる「おはなし会」や「絵本ライブ」などを行い、図書館友の会「もみわフレンズ」では各種活動のサポートを行います。

3日目午後は兵庫県赤穂市の赤穂市立図書館を視察しました。

赤穂市立図書館は「読書に集中できなくなるほど美しい図書館」としてグッドデザイン賞を受賞した図書館です。旧図書館の老朽化に伴い市制 50 周年記念事業として平成 13 年に完成した図書館です。基本理念として①光あふれるパークライブラリー「忠臣蔵に代表される元禄ロマンの和、城下町のた



(読書に集中できなくなるほど美しい図書館)

たずまい、塩田の陽光・風などをイメージして赤穂らしさを表現、文化会館や広場の木々と一体となり訪れる人々に安らぎを与える光あふれるパークライブラリーとしての整備」②学び、楽しみ、くつろぐ図書館をめざし、様々なスペースを配置③21 世紀の赤穂市の文化情報発信拠点施設と位置付けました。

図書館の利用でレファレンスサービスの充実や、子ども向けにおはなし会、上映会、夏休みに手作り絵本教室、茶道教室、科学工作教室、1 日図書館職員、チャレンジ読書を行っています。

4 日目は兵庫県明石市のあかし市民図書館を視察しました。

あかし市民図書館は駅前再開発ビルの中に位置し、指定管理で運営しています。旧図書館の老朽化に伴い、平成 23 年に駅前再開発ビル内に建設を決定し、今年 1 月にオープンしました。同じビル内に公共施設として、あかし子育て支援センター・一時保育ルーム・こども健康センター・あかし総合



(駅前再開発ビルには図書館のほかに子育て支援センターなどがある)

窓口等があります。公共施設の複合化による相乗効果については有ると考えるが、建設間もないため正確なデータは取っていないとのことです。

あかし市民図書館では、レファレンスサービス（調べもの相談）など、利用者からの必要な情報・資料の求めに対し、図書館職員が自ら街に出て明石市の歴史や文化を知る人からの情報収集し、利用者に提供するなどの活動も行っています。職員は指定管理の民間職員ということもあり、対応が明るくはつらつとしており、カウンターの設計では立って対応するアイデアを提案するなど接客や作業の効率性など民間企業のノウハウを取り入れています。

今回は図書館を4か所視察しましたが、図書館のあり方については、設計の段階からどのような人が、どのように関わり、市民とともにどのような理念を持つ図書館を目指すのかが重要だと感じました。情熱を持つ担当職員や様々な経験を持つ専門家を職員として迎える、指定管理を受注し全国に多くの経験と実績を持つ会社など、人や情報の大切さを目の当たりにする視察となりました。

また、鉄道事業では地域と向き合いながら民間的発想で集客事業を目指す姿はこの地域にも応用することができるのではないかと感じました。

今回も目的意識を強く持ちながら有意義な視察をさせていただきました。今後の名寄市の街づくりに活かしていきたいと思えます。

以上、視察報告といたします。



（赤穂市立図書館）